

湘南ゴールド・はるみ（かいよう病に弱い品種）（成木）

【令和6年1月1日現在の農薬登録内容】2024版

※ 太枠は重要防除です。

月(時期)	対象病害虫	区分	使用農薬(倍率)
収穫後	かいよう病		ICボルドー66D 100倍(アピオンE 1000倍加用)又は ムッシュボルドーDF1000倍(クレフノン200倍加用) 発芽前であればアピオンE、クレフノンの加用は必要ない。
	注) 病斑の付いた枝は剪定時に園外に持ち出す。 ICボルドー66Dはマシン油との散布間隔は14日以上空ける。		
4月上旬	ミカンハダニ		アタックオイル 100倍又は ハーベストオイル 100倍又は スプレーオイル 100倍
	注) 湘南ゴールドでは冬季マシン油散布が出来ないので、この時期必ず散布する。 はるみでは1月中旬(収穫後)に散布する。銅剤との近接散布は行わない。 注) カイガラムシ類を多く見かけた場合は アブロード水和剤1000倍をマシン油に加用し散布する。		
5月上旬 ～ 5月中旬	かいよう病		コサイド3000 2000倍 クレフノン 200倍(薬害軽減のために加用する)
	灰色かび病		フロンサイドSC 2000倍又は ストロビードライフフロアブル 3000倍
	コアオハナムグリ	劇	モスピラン顆粒水溶剤 4000倍
注) 灰色かび防除は満開から落弁期にかけて散布する(多発園は2回)。 訪花害虫多発園では2回以上散布する(3分咲きと満開時期)。 フロンサイドSCはかぶれに注意する。			
6月中旬 ～ 6月下旬	黒点病		ジマンダイセン水和剤 600倍
	ミカンハダニ カイガラムシ類		アタックオイル 150倍又は ハーベストオイル 150倍又は スプレーオイル 150倍
	ミカンサビダニ アザミウマ類	劇 劇	ハチハチフロアブル 2000倍又は コテツフロアブル 6000倍
注) すず病はアブラムシ・コナジラミ・カイガラムシ類の排泄物に繁殖したカビが原因であり、害虫の防除が重要になる。 かいよう病の発病が多い、又は風当たりが強い場合は、クレフノンを加用しコサイド3000 2000倍を散布する。 カイガラムシ類の多発園ではアブロードエースフロアブルはミカンサビダニにも効果有り。 アブロードエースフロアブルはミカンサビダニにも効果有り。 注) ミカンナガタマムシ・ゴマダラカミキリ成虫の発生園では、エクシレルSE 5000倍を散布する。			
6月下旬 ～ 7月上旬	かいよう病(単用散布)		コサイド3000 2000倍 クレフノン 200倍(薬害軽減のために加用する)
7月上旬 ～ 8月中旬	黒点病		ペンコゼブ水和剤 600倍又は ジマンダイセン水和剤 600倍
	ミカンハダニ ミカンサビダニ アザミウマ類 ミカンハモグリガ	劇	メビウスフロアブル 3000倍
	注) カイガラムシ類を多く見かけた場合ではコルト顆粒水和剤 3000倍を散布する。		
8月下旬 ～ 9月上旬	黒点病		ペンコゼブ水和剤 600倍又は ジマンダイセン水和剤 600倍
	ミカンハダニ ミカンサビダニ		ダブルフェースフロアブル 3000倍 又は ダニゲッターフロアブル 2000倍
	ヤノネカイガラムシ チャノキイロアザミウマ		スタークル顆粒水溶剤 2000倍
	かいよう病(単用散布)		コサイド3000 2000倍 クレフノン 200倍(薬害軽減のために加用する)
10月下旬 ～ 11月上旬	ハダニ類		オマイト水和剤 750倍
12月下旬 ～ 1月上旬	貯蔵病害 (青かび病、緑かび病、軸腐病)	劇	ベフトップジンフロアブル 1500倍 又は トップジンM水和剤 2000倍
	注) 果実を袋かけする場合は、袋かけする前に散布を行う。		

※マシン油とは、ハーベストオイル、アタックオイル、スプレーオイル等の総称です。

散布量は500～600g/10aを目安にタツリ散布する。

「農薬の使用は、使用基準を確認し、周りの他作物に農薬が飛散しないようにすること」